

事業報告書

(平成27年度)

第 16 期

自 平成27年4月1日

至 平成28年3月31日

特定非営利活動法人 地球と未来の環境基金

東京都千代田区神田須田町2-2-5 CTNビル3F

特定非営利活動法人地球と未来の環境基金

平成 27 年度事業報告書

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

事業の成果

本年度実施した事業は下記の通りである。

(1) 国内森林保全事業

- ・岩手 西和賀町での植樹地メンテナンス事業
- ・千葉 木更津市真里谷、君津市かずさの森&豊果（ゆたか）の森での植樹活動
- ・埼玉 飯能市での森林整備事業
- ・静岡 川根本町での森林整備事業
- ・奈良 吉野町での間伐事業、世界（文化）遺産吉野の山の森林保全事業
- ・広島 竹原市での植樹事業
- ・沖縄 恩納村での植樹事業
- ・間伐材利用促進事業(結糸プロジェクト)
- ・生物多様性事業支援プロジェクト(一般社団法人CEPAジャパン事務局)

(2) 海外環境保護事業

- ・ブラジルでの河岸林保全事業

(3) バガス（非木材紙）普及事業

- ・バガス普及啓発事業（大学学園祭へのモールド導入）

(4) 環境助成金プログラム支援事業

- ・環境NGOの組織基盤強化助成事業（Panasonic NPO サポートファンド）
- ・環境保全助成事業案件評価支援事業（全労済地域貢献助成・三井物産環境基金）
- ・分散型電源導入事業(経済産業省 資源エネルギー庁)
- ・廃炉・汚染水対策事業(経済産業省 資源エネルギー庁)

2015年度 ご寄付ご協賛企業・団体一覧

(1) 国内森林保全事業

【岩手・西和賀町での植樹地メンテナンス事業】

ザ・パックフォレスト活動の第1号地として、2001年6月からスタートした岩手県和賀郡西和賀町での森づくり活動は、2014年秋でザ・パック(株)のボランティア社員参加の活動を終え、今年度から現地の協働団体と当団体のスタッフにより植樹地のメンテナンスのみ実施している。

西和賀森づくり隊の新田隊長から、もう雪囲い等の養生は不要とのことで、夏場の下草刈を下記日程にて実施した。

■実施日： 2015年8月11～13日

■参加者： 新田博光（西和賀森づくり隊）、高橋広明（EFF）

一部まだ丈の低い樹木は、当地の豪雪に押しつぶされたものも散見されたが、大きくなった樹木は全く雪の影響はなく、幹が徐々に太くなって来ている。

植樹地の様子は以下の写真の通りである。



【千葉県木更津市真里谷、君津市かずさの森&豊果（ゆたか）の森での植樹活動】

今年度の千葉の森づくり活動は8月29日、木更津市真里谷の植樹地でEFFのスタッフ+ボランティア2名の手で、刈り払い機を使用して草刈活動を実施した。

小雨の中、4~5mの灌木が密集して苗木は全く見えない。茂みがじゃまをして植林現場に入ることを困難にしていたため、手前から竹や小軽木を、のこぎりとはさみで切りとりながら分け入るのが1名、他の2名は刈払機を振り回しながら内部に侵入していった。看板の後ろ辺りは苗木を面の状態で刈り取ったが、面積としては全体の1割程度、他の部分は刈払機で直線状に進んだ。結果としてはあわせて2割程度の達成。

草を刈るならまだ伸びきらない7月初旬あたりにしたほうがよいと思われる。草や木に覆われているものの根付きは良い。1年目のムクノキ、ケヤキは直径10cm、高さ6mほどに生長していた。



【埼玉・飯能市での森林整備事業】

『里地・平地林再生事業の実施に関する協定書』に基づき実施している埼玉県飯能市での保全活動も4年目となった。当初、例年通り草刈・間伐・植樹の活動を予定していたが、梅雨の雨による林道の荒廃や雨天のため今年は3月に植樹活動のみ実施となった。

【植樹】

3月12日・今回の参加者は27名。車以外の参加者は朝9時に武蔵横手駅に集合し、その後前日までの雨で足元が若干ぬかるむ中、30分程山道をゆっくり準備運動もかねて登り植樹現場へ到着。

今年の植栽した樹種はコブシ10本、クロモジ10本、クリ10本、ヤマボウシ10本、ナナカマド10本の合計50本。これまでコナラやクヌギ中心に植栽してきたため、同斜面の最終エリアは埼玉県発行「生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準」を参考に花や実のなる木など人も動物も楽しめる樹種を選定した。

また、今回初めての参加者も多かったが樹種ごとにチームに分かれ、急斜面もものともせずフォレスト萩原のスタッフにご指導いただきながら手際よく50本の植栽と擁護用ネットの設置を終えた。

また、下山後の昼食には山の恵みを楽しむをテーマに同地にある「猟師工房」にご協力いただき鹿・猪のジビエBBQを実施。焼肉をはじめ鹿肉コロッケ、鹿汁と盛りだくさんな内容で、初めてジビエ肉を食べた参加者も美味しいと一同おなか一杯になるまで山の恵みを満喫した。さらには、飯能の名産品・西川材の魅力伝える雑貨&カフェ「kinoca」も訪問し、西川材を使って建てられた心地のいい空間に並べられた木工品などの雑貨をみて様々な木の活用についても触れた。

次年度も行政をはじめ、地元企業とも連携を強化しながら継続的に森のことはじめ当地の魅力や自然の恵みを参加者と楽しく学び、共有できる機会を、活動を通じて展開していきたい。



まずは植え方と苗木擁護ネット設置の説明



いざ、実践



急斜面でもサクサクと作業を進める皆さん



ジビエ肉を準備して下さる猟師工房スタッフ



美味しそうなお肉にくぎ付け



参加者全員で！

【静岡・川根本町での森林整備事業】**◆山林の保水力・保土力向上と大井川の再生のための森づくり&地域活性化事業 『川根 GREEN PARTY』**

6月6-7日（1泊2日）に、地元林業家の指導のもとで、全国から大学生のボランティア16名を集めて、これまでの植樹地の草刈、サプリガードのメンテナンス作業を実施した。地元林業家の指導のもとで実施したので、今回も怪我も無く、手際よく進めることができた。

- ・2013年3月 「第1回川根 GREEN PARTY」の植樹地（上長尾）
- ・2014年3月 「第3回川根 GREEN PARTY」の植樹地（田野口）

「川根 GREEN PARTY」は、観光資源や自然資源に恵まれた川根本町で推進する事業だが、他地域と同様に高齢化、過疎化が進行し、かつては非常に盛んであった同町の林業も、若者の流出や木材価格の低迷によって林業家の数が減少し、森林の継続的な活用が困難な状況にある。豊かな森が生み出す水や大井川の恵みは、お茶や観光を始めとした地域産業と密接に関連しており、森を守り育てていくことが非常に重要な課題であると考えられる。2015年度7月以降は、地元NPOのかわね来風が同事業を引継ぎ、協力企業や個人の支援を得て継続発展させている。



「第1回川根 GREEN PARTY」の植樹地（上長尾）



「第3回川根 GREEN PARTY」の植樹地（田野口）

【奈良・吉野町での間伐事業】

◆元気森・MORI in 吉野山

2015年11月21日、奈良県吉野山で、毎年恒例の一般市民と協賛企業のボランティアを集めた間伐活動「元気もりもり・MORI in 吉野山」を実施した。町内外から集まった76名もの参加者を全8班に分け、林業専門家の指導のもと吉野の山の森林整備に汗を流した。

まず、伐る樹を選び（選木）、倒す方向を決め、縄を木にかけ、腕の反動で上へ上げていく。毎年参加いただいているベテランボランティアは、縄上げも慣れた手付きだ。鋸で3分の1程度の切込みを入れた後は、反対側から鋸で切っていく、ある程度のところで縄を引っ張って樹を倒す。

作業終了後には、参加者全員で、小春日和の中、配給を受けた豚汁とおにぎりで一息をつき、各々の活動成果について語らい、交流した。



<実施概要>間伐予定地1ha（40年生ヒノキの山林）のうち0.6haの山林の20%（約80本）の間伐

<参加者>76名

ザ・パック(株)、(株)エディオン、(株)シュゼット、吉野中央森林組合、吉野山林業研究会、吉野山自治会、吉野高校の先生、一般参加の皆様、NPO 法人地球と未来の環境基金

◆世界（文化）遺産吉野の山の森林保全事業

2010年11月より、株式会社パル、町内の山林所有者北岡本店、吉野中央森林組合、ザ・パック株式会社と5者協定「世界（文化）遺産吉野の山の森林保全と育成を目的とした「PAL／フォレスト植林」」を結び、生物多様性の森への保護と育成を目指して、緑の保全活動と植林事業を展開している。2015年も昨年同様に、植樹地の草刈と、植栽した苗木と鹿の食害防除ネット(サプリガード)の補修作業を実施した。

<参加者>36名 (株)パル、ザ・パック(株)、吉野中央森林組合、NPO 法人地球と未来の環境基金



【広島・竹原市での植樹事業】

2004 年から開始した竹原の植樹事業は、昨年の活動を以ってボランティアが参加し植栽できるエリアを植え終えたため、今年から苗木保育のための植樹地の草刈などの保守・整備中心の活動へ移行することとなった。改めて振り替えると当地での植樹活動は、昨年度までの 11 年間で延べ 3,131 名にご参加いただき、合計 5.7ha、12,658 本を植えることができた。初年度植えた苗木は、現在 2m を超えるまでに成長し、剥き出しだった山肌には徐々に緑が戻りつつある。これもひとえに長きにわたる温かいご支援、ご協力のお陰であり、関係者各所、ボランティアの皆さまに深く感謝申し上げたい。

●植樹地

(2004 年～2009 年実施)

左：2004 年撮影

右：2012 年撮影



●苗木（国有林）

左：2013 年撮影

右：2014 年撮影



また、今年の保守・整備活動としては、8月29日(土)に国有林での草刈を実施した。酷暑の中、地元竹原高校の生徒、(株)エディオン、ザ・パック(株)等の企業社員、竹原市役所職員・合計 60 名が参加し、尾三中央森林組合にご指導いただきながら、早朝から約 2 時間汗を流しながら作業を行った。ボランティアで作業できる面積はわずかではあるが、継続的に参加くださっている企業社員からは、植樹した苗木の成長を確認できて良かったとの声も聞かれ、植えた後の成果として“その後”を見て頂くことの大切さを実感した。なお、イベントとして作業できなかった部分については、尾三中央森林組合に委託し整備を行っていただいた。

国有林エリアも概ね 5 年が経過し、苗木も大きくなっているため、次年度以降整備するエリアについては森林組合と引き続き相談し、より良い形で整備を進めていきたい。



快晴の空の下、スタート



成長した苗木の合間の草も丁寧に刈る



いい汗をかいた参加者の皆さん

【沖縄・恩納村での植樹事業】

2009年6月で一旦活動を休止していた沖縄・恩納村での植樹活動について、2014年度より再開している。今回も植栽地の背景とテーマは、前年度同様に2012年の大型台風で壊滅的な被害を受けた海岸沿いの防風・防潮林の再生である。

地元のNGO団体「沖縄リサイクル運動市民の会」や「美砂（ちゅらさ）の会」の協力を得て、さらには恩納村の行政の支援も賜りながら準備を進め、2016年10月24日（土）に植栽活動を実施した。前年度は6月実施だったが、植栽したばかりの苗木が台風による甚大な被害を受けてしまったため、日程を見直して台風シーズンではない10月の実施となった。今回の植樹活動にはザ・パック(株)の関東、関西の本社、福岡支社から24名の社員ボランティアに参加いただいた。

植樹活動前10月23日（金）午後は、恩納村役場で事前学習会を開催、元琉球大学教授の新城和治先生から、沖縄県や恩納村の海岸植生について講義を受けた。翌日の植栽活動日は生憎の小雨だったが、8時45分からザ・パック(株)の社員ボランティアが集まり、「沖縄リサイクル運動市民の会」と「美砂（ちゅらさ）の会」の指導のもと、計470本（内訳はハマユウ40本、サキシマハマボウ30本、テリハボク50本、クサトベラ350本）の苗木を植え付けた。前年度の反省から活動日を10月に変更したことが功を奏し、植栽地に対する天候被害は最小限に抑えられている。



元琉球大教授、新城先生による事前学習会



丁寧かつ手際良く植栽していただきました



植栽終了後は、岩礁の生き物観察



小雨の中での植栽作業、お疲れさまでした！

【間伐材利用促進事業（結糸プロジェクト）】

“吉野の木から生まれた布で吉野の森を守る”をキャッチフレーズに奈良県吉野の間伐材を原料に布をつくる「結糸」(YOUITO) プロジェクト。

今年度も企業・行政への提案を行いコラボレーションアイテムとして2点の実現し、夏より販売開始された。

- ・「override」 結糸 & override CASQUETTE、結糸 & override BRAID SAILOR（帽子2アイテム）
- ・「きとぶらす」 森の枕 -おひるね枕-（枕カバー）

また、オリジナル商品としては、今年度はブランド名にも込めた「結ぶ」をキーワードにブライダルや出産など人生の大切な始まりに贈るギフト商品を試作し、展示会等で提案を行った。



2015 提案商品：ブライダルギフト（箸・箸置き・ランチョンマット・コースター）、ベビーギフトセット（ビブ・スプーン、葛タオル）
 ご祝儀袋、刺繍入りクッションカバー

この内、ご祝儀袋については商品化を進め奈良県アンテナショップ・まほろば館(東京・日本橋)、WEB ショップ「SoooooS.」をはじめ、TERA SHOP GINZA(東京・銀座)でお取扱いいただいている。さらには、デザイン・ディレクション頂いている STUDIO BYCOLOR 秋山氏のお力添えによりパーティションへも展開が進み、試作品用の生地提供や YKK との協働企画によるイベントが開催でき、本プロジェクトについてより多くの方々に、知っていただける機会をいただいた。

《イベント出展》

- ・10月19日(月) 『EVI 環境マッチングイベント 2015』出展(有楽町)
- ・10月21日(水) - 23日(金) 『PLUG IN』 エシカルゾーン出展(渋谷)
- ・10月27日(火) - 31日(土) 『ユルリとつながるプロダクト展』
ものづくり館 byYKK 共同企画・出展 (秋葉原)



《メディア掲載》

- ・「住む。」Spring2015 (No.53: 2015年5月1日発行)
- ・ソーシャルグッドな商品やサービスを応援する Web メディア buycott《バイコット》(2015年5月27日掲載)
- ・ソーシャルイノベーションマガジン「オルタナ」(43号: 12月17日発売)



【生物多様性事業支援プロジェクト(一般社団法人 CEPA ジャパン事務局)】

2010 年 10 月に開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10) において採択された「愛知目標」の短期目標を達成するため、主導的な役割を果たした「生物多様性条約市民ネットワーク」の活動が母体になり「一般社団法人 CEPA ジャパン」が設立された。

当法人では、CEPA ジャパンからの依頼を受け 2013 年より事務局業務の一部を受託しており、これまで同様に職員 1 名が日常の電話対応、理事会や総会の準備・参加、地球環境基金の助成事業に係わる事務に加え、今年度より国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB-J) 主催の生物多様性アクション大賞の事務局業務を担い募集から授賞式の開催、報告書作成まで執り行った。

●生物多様性アクション大賞 2015 概要●

「国連生物多様性の 10 年日本委員会」(UNDB-J)では、国民一人ひとりが生物多様性との関わりを自分の生活の中でとらえることができるよう「5つのアクション」(たべよう、ふれよう、つたえよう、まもろう、えらぼう)を広く呼びかけている。「生物多様性アクション大賞」は、全国各地で行われている5つのアクションに取り組む団体・個人を表彰し、積極的な広報を行うことにより、生物多様性の主流化に貢献するもの。2013 年度に創設、2014 年度より UNDB-J と一般財団法人セブン-イレブン記念財団との共催で実施。

■募集期間：2015 年 6 月 5 日 (金) ～2015 年 8 月 31 日 (月)

■大賞発表・授賞式：2015 年 12 月 11 日 (金)

■URL：<http://5actions.jp/award/>

■内容：生物多様性の保全や持続可能な利用に取り組む団体・個人から、下記部門ごとの取り組みを募集。

各部門の優秀賞によるプレゼンテーションを行い、その中から生物多様性アクション大賞を決定。

《たべよう》 地元でとれたものを食べ、旬のものを味わいます。

《ふれよう》 生の自然を体験し、動物園・植物園などを訪ね、自然や生きものにふれます。

《つたえよう》 自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで伝えます。

《まもろう》 生き物や自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に参加します。

《えらぼう》 エコマークなどが付いた環境に優しい商品を選んで買います。

■実施体制

主 催：国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB-J) 共 催：一般財団法人セブン-イレブン記念財団

協 賛：前田建設工業株式会社 セキスイハイム 特別協力：公益社団法人国土緑化推進機構 経団連自然保護協議会

協 力：富士フイルム株式会社 後 援：朝日新聞社 共同通信社 日本経済新聞社 毎日新聞社

事務局：一般社団法人 CEPA ジャパン

審査委員：吉田正人(筑波大学教授 ※審査委員長※)、足立直樹(レスポンスアビリティ)、小野弘人(セブン-イレブン記念財団)、梶谷辰哉(国土緑化推進機構)、川廷昌弘(CEPA ジャパン)、坂田昌子(UNDB 市民ネット)、道家哲平(日本自然保護協会)、星野智子(環境パートナーシップ会議)、堀上勝(環境省)

■応募総数：135

■大賞：「竹を食べて放置竹林をなくす」 特定非営利活動法人 加茂女(京都府木津川市) (たべよう部門優秀賞)



(2) 海外環境保護事業

【ブラジルでの河岸林保全事業】

アマゾン地域での河岸林保全事業は3年目となった。本プロジェクトの背景は、生物多様性に富むアマゾン浸水林（ヴァルゼア林）原産のアサイー椰子が、近年、健康食品として国際的に流行し、経済価値の低い他樹種の急激な違法除伐が進行していることである。違法除伐が横行した結果、魚介類、鳥類、授粉昆虫が減少するなど、浸水林の生態的機能劣化が起こり、結果として林内の湿度低下、落葉枝減少、浸食による土壌劣化など招き、アサイーの収量、質とも低下する状況が地域で進行しつつある。

こうした状況を食い止めるため、既に terra firme と呼ばれる年中冠水しない土地で確立している「アグロフォレストリー」の導入を試みている。前年度はパラ州アバエテトゥーバ市サンジョアンバチスタ集落の Raimundo 氏の土地に、アグロフォレストリーの展示圃場（約 0.6 ha）を設置し、アサイー林の中にカカオ、バナナ、インガなどの樹種を混植した。

今年度は、Raimundo 氏の展示圃場設置地域を現地指導員が定期的に訪問し、展示圃場や養魚場の改善指導を行った。さらに、新たな地域でのアグロフォレストリー普及を図るため、アバエテ川イタウアスー支流の湿地帯農家 Andre 氏の土地に新たな展示圃場（約 0.6 ha）を設置、カカオ、アサイー、バナナなどの樹種 800 本を混植した。また、現地指導員が近隣集落を訪問し、アグロフォレストリーの意義を説明するなど、普及啓発も続けた。

10月29日には、当団体理事長の古瀬が現地打合せ等で訪問し、現地カウンターパート NGO の ASFLORA（アマゾン森林友の協会）の協力を得て、地域にアグロフォレストリーを普及するための啓発を趣旨としたワークショップを開催した。ワークショップにはノッサセニューラ・ド・ボンヘメジオ集落から 14 名の住民が参加し、午前中はアグロフォレストリーの意義を説明するワークショップを実施し、午後からは Andre 氏の土地に設置した展示圃場を見学し、圃場の一部で住民が実際に植付を体験した。

ワークショップには 2015 年にアグロフォレストリーを導入した Raimundo 氏も参加してくれた。同氏はアグロフォレストリーを導入することで、アサイーだけに生計を頼らず、収穫がない時期でも他の収穫物を得られるようになった実績などを説明、養豚や養魚、木の実採集も導入している経験も織り交ぜて、本プロジェクトの意義を説いてくれた。同じヴァルゼアに住む住民の具体的な事例を示すことで、住民の本プロジェクトへの関心は高まった様子で、引き続き地域にコツコツ足を運び、地域住民の理解を得る努力を積み上げ、具体的な成果を見せて行くことが重要であろう。



ノッサセニューラ・ド・ボンヘメジオ集落での
ワークショップの参加者たち



Andre 氏の展示圃場での植付体験の様子

(3) バガス（非木材紙）普及事業

【バガス普及啓発事業（大学学園祭へのモールド導入）】

2009年より、エコ学園祭を推進する商材としてバガスモールドの導入を働きかける活動を展開している。砂糖きびの搾りかす（バガス）を原料にしたバガスモールドは、未利用資源を活用、木材資源の消費低減から森林保全に寄与するとともに、焼却処理しても有害物質を発生させず、土中で容易に自然分解できるという優れた特徴を持つことから、大学生の学内環境活動の一つとして注目されてきた。

本活動は、全国の学園祭におけるバガスモールドの普及拡大を狙いとしており、紙関連業界（卸商や小売店など）に対するバガス（非木材紙）への認知度向上および経済的インセンティブの喚起を目指している。

2012年からは、バガスモールド導入に係る事柄だけではなく、他の環境企画やバガスモールドの土壌分解のコツ、大学祭自体の来客数増加施策、実行委員会の人材戦略やミッション・ビジョン作りについても相談に乗るなどのサポートも実施して導入校を増やしてきた。また、埋め立て場所を持たない都市部の大学から多く寄せられる廃棄モールドの土壌分解の要望に応えるため、小規模農家や農業生産法人とコンソーシアムを組み、土壌分解のサービスの展開を模索している。本年度は、その切り口の営業成果として城西国際大学東金キャンパス（千葉）と信州大学松本キャンパス（長野）の学園祭へのトライアル導入が実現した。

引き続き、EFF、大学、小規模農家や農業生産法人という三者のパートナーシップで〔学園祭でのモールド使用・分別収集〕→〔運搬・破碎〕→〔埋め立て〕→〔学生と農家との交流促進／土壌の利活用〕というサイクルを回し、導入校を増やしていくことが今後の課題である。

【2015 年度 学園祭でのバガスモールド導入実績】

大学名 (日時)	来場者数 (およそ/人)	どんぶり		パック		丸皿 MM-4	平角皿		椀 MM-9	コップ L051	モールド* 合計	木製 スプーン/フォーク	
		MD-3	MD-5	MP-1	MP-2		MT-1	H013				#162	#140
		小	大	大	小		長	中				大	小
早稲田大学高等学院 10月10・11日	10,000							100			100		
城西国際大学 11月1日～3日	20,000	1,000	1,500		2,700	600	400		450	1,000	7,650	700	1,500
東京農業大学 10月30～11月1日	200,000	17,000			32,000			5,000	2,800	18,000	74,800	2,500	
愛媛大学 11月14・15日	20,000		1,800	850		500		400		1,400	4,950		
信州大学 10月31～11月1日	40,000						300				300		
合計	290,000	18,000	3,300	850	34,700	1,100	700	5,500	3,250	20,400	87,800	3,200	1,500

(4) 環境助成金プログラム支援事業

【環境NGOの組織基盤強化助成事業（Panasonic NPO サポートファンド）】

パナソニック(株)との協働で実施している、NPO/NGOの組織基盤強化を支援する助成プログラム『Panasonic NPOサポート ファンド』は、今年度も前年同様の内容で取り組んだ。助成テーマは「客観的な視点を取り入れた組織基盤の強化」とし、第三者のアドバイザーを導入することで実効性の高い組織課題解決の取り組みを推進し、環境分野の市民活動の持続的発展、社会課題の解決促進、社会の変革へ貢献することを目指している。従来と同様に、新規の助成団体を公募した。応募時期に合わせては、全国6地域（東京、福岡、岡山、北海道、大阪、福島）で、パナソニック(株)と日本 NPO センター、各地の中間支援組織との共催で「NPO/NGO の組織基盤強化のためのワークショップ&公募説明会」が開催された。ワークショップには NPO の組織基盤強化に高い関心を寄せる参加者が多く集まったが、助成への応募数は 28 件（2014 年募集の助成団体からの継続申請案件 8 件を含む）にとどまった。

助成団体の選考プロセスは、7月31日に公募を締め切り、応募のあった全28件中3件は助成趣旨に合致しない内容と判断し、残る25件について4人の選考委員に案件評価を依頼した。その上で9月上旬に選考委員会を開催、助成先候補として新規応募団体から8団体、継続応募団体から4団体を選定した。9月中旬～10月初旬に事務局が助成先候補の12団体のうちの9団体（新規8団体+継続1団体）を訪問し、選考委員会で出された指摘・確認事項に基づいてヒアリング(実査)を実施した（継続団体の残りの3団体はヒアリング（実査）を省略、メールコミュニケーションでの確認とした）。10月下旬にヒアリング結果を選考委員会へフィードバック、選考委員の最終意見を取りまとめ、パナソニック(株)との協議および選考委員長の決裁を得て最終的に新規応募7件、継続応募3件に計1,500万円の助成を確定させた。

2015年に本助成を受けて組織基盤強化に取り組んだ9団体〔助成事業期間：2015年1月～12月〕からは四半期報告書で助成事業の進捗について報告を受け、7月に各団体への中間ヒアリングを実施、助成事業の進捗状況を確認、事業実施上の問題点や下半期へ向けた計画の変更などを協議した。また、2015年6月まで組織基盤強化事業（3年目）に取り組んだ1団体〔助成事業期間：2014年7月～2015年6月〕に対してもフォローも実施した。2016年2月24日には、環境分野の助成先計10団体を集めて成果報告会（於 パナソニックセンター）を開催、事業成果の発表と共有を行い、選考委員や参加者から意見やアドバイスをいただいた。

＜Panasonic NPOサポート ファンド 2015 年募集事業 助成先＞

助成団体	所在地	代表者（役職）	助成額 (万円)
【組織診断事業】			
(認定)びわこ豊穡の郷 「持続可能な経営基盤の確立で、次世代に継承」	滋賀県	長尾 是史（理事長）	100
(特活)芦生自然学校 「京都・美山の森と川を守り活かすための組織強化」	京都府	井栗 秀直（理事長）	100
(特活)棚田 LOVER's 「棚田保全の実践者、寄付者獲得、認定 NPO 法人取得のための組織診断・基盤強化事業」	兵庫県	永菅 裕一（理事長）	100
(一社)水辺のユニオン 「高梁川流域の循環型社会形成のための組織基盤強化事業」	岡山県	岡野 智博（代表理事）	100
【組織基盤強化事業】			
(公社)日本環境教育フォーラム 「会員・寄付 10%増加に向けた広報戦略策定事業」	東京都	川嶋 直（理事長）	150
(特活)アジア太平洋資料センター(PARC) 「蓄積された人的リソースの再活用、新規会員・寄付者獲得のためのデータベース構築及びそれを通じたビジネスモデル見直し」	東京都	大江 正章（共同代表） 細川 弘明（共同代表）	200
【組織診断＋組織基盤強化事業】			
(特活)兵庫県有機農業研究会 HOAS 「団体の歴史的蓄積と強みを明確化し次世代へつなげる組織分離・再編に伴う組織基盤強化」	兵庫県	牛尾 武博（理事長）	180
【組織基盤強化事業】(継続2年目)			
(特活)しずおか環境教育研究会 「真にユニークな「環境教育 NPO」としての完成を目指した、事業構築力と人材育成力のステップアップ」	静岡県	兼高 里佳（理事長）	200
(認定)自然再生センター 「長期目標のミッション・ビジョンの確立(中期目標実現のための体制強化)」	島根県	徳岡 隆夫（理事長）	170
【組織基盤強化事業】(継続3年目)			
(認定)環境市民 「ソーシャルインパクトを出せるアドボカシー型 NGO として発展するための財政基盤と組織マネジメントの仕組み確立」	京都府	杵本 育生（代表理事）	200
助成総額（10 団体）			1,500

【環境保全助成事業案件評価支援事業】

1) 全労済地域貢献助成

2015 年度の全労済（全国労働者共済生活協同組合連合会）の助成事業「全労済地域貢献助成」は、助成総額 2,000 万円で実施された。前年度から従来の環境・子ども分野で各 1,000 万円という区分を撤廃し、活動の実体的な内容として以下の 5 つの活動を助成対象活動として公募した。

- (1) 地域の生態系を守る活動
- (2) 低炭素・循環型の地域社会をつくる活動
- (3) 地域の自然や環境の大切さを学ぶ活動
- (4) 子どもや親子の孤立を防ぎ、地域とのつながりを生み出す活動
- (5) 困難を抱える子ども・親が、たすけあい、生きる力を育む活動

当団体では、応募された案件（100 案件）のうち、全労済事務局で応募要件外等により失格と判断された 24 案件を除く 76 案件について、各地域の審査委員（外部審査委員）に送付する前段階で一定数まで絞り込む予備審査業務を受託した。

予備審査では、当団体スタッフと全労済本部の社会貢献推進課職員が対象案件の評価を行い、評価を集計した上で、4月下旬から5月上旬に審査会を開催した。予備審査会の議論では、記載内容が極めて杜撰で実施に不安がある案件、単発的なイベントに過ぎない案件など、本助成の基準、趣旨に合致しない案件を選外とした。予備審査を通過した案件は、各地域の審査委員（各地の NPO 支援センターなど中間支援組織の方で構成）に送られ、5月下旬から全労済の 4 事業本部（北日本、東日本、中日本、西日本の各事業本部）ごとに審査委員会が開催され、助成先が選定された。応募状況と選考結果は以下の通りである。

<全労済地域貢献助成概要>

- 【助成対象団体】 日本国内を主たる活動の場とする一定要件を満たす NPO 法人、任意団体、市民団体
- 【助成総額】 2, 000 万円
- 【助成内容】 1 団体当たり上限 30 万円まで
- 【応募期間】 2015 年 3 月 25 日～同 4 月 8 日まで
- 【助成対象期間】 2015 年 7 月 20 日～2016 年 7 月 19 日までに実施する活動

※全労済地域貢献助成の詳細は、同社下記 Web サイト参照のこと。

<http://www.zenrosai.coop/zenrosai/csr/joseijigyoku.html>

() は 2014 年実績

応募数	助成先団体数	助成総額
319(312)	73(74)	19, 715, 390円

2) 三井物産環境基金

三井物産(株)が主催する「三井物産環境基金」の助成事業（活動助成）については、前年度から助成対象とするテーマを4つの大きな領域にくくり直し、より広い範囲の課題に対する取り組みを新しく助成の対象となるように見直しがなされた。2015年度も前年に引き続き同社 Web サイトで示されているように、「未来につながる社会をつくる」ことを助成プログラムが目指すべき主要な命題として位置づけ、環境へのアプローチごとに、より大きなくくり方として①地球環境、②資源循環、③生態系・共生社会、④人間と社会のつながり、と設定されている。

当団体では、前年に引き続き応募案件の一次スクリーニング評価業務を受託した。2015年度の助成概要は下記の通りである。

<三井物産環境基金（活動助成）概要>

- 【助成対象団体】 日本国内に拠点を持つ NPO 法人、公益法人、大学、高等専門学校
- 【対象課題】 地球環境問題の解決と持続可能な社会構築に貢献する「実践的な活動」
- 対象分野●
- ①地球環境
- ②資源循環
- ③生態系・共生社会
- ④人間と社会のつながり
- 【助成総額】 非公表（1案件当たりの助成上限はなし。ただし自己資金比率の規定あり）
- 【応募期間】 2015年6月13日締切

※三井物産環境基金の詳細は、同社下記 Web サイト参照のこと。

<https://www.mitsui.com/jp/ja/csr/contribution/environment/fund/>

()は2014年実績

応募件数	採択件数	助成額
98件 (154件)	15件 (21件)	154,642千円 (118,137千円)

※応募件数には応募資格を満たさない案件は含まない。

【分散型電源導入促進事業費補助金】

当法人では、平成 25 年 5 月より引き続き省エネルギーや電力需給の安定化を目的とした「分散型電源導入促進事業費補助金」の基金設置法人として、天然ガスコージェネレーション、自家発電設備（コージェネレーションシステムにおける発電設備を含む）の導入や燃料費に対して補助金を交付する事業を 27 年度も継続実施している。本事業は、ガスコージェネレーション推進事業と自家発電設備導入促進事業に区分され、実際の補助金申請の受付等の事務を執り行う「事務局」として、それぞれ（一社）都市ガス振興センター、みずほ情報総研(株)が選定され、当法人では造成した基金の運用、管理と 2 つの事務局への指導監督を実施している。平成 27 年度のそれぞれの実施概要は以下の通りである。

ガスコージェネレーション推進事業（事務局：（一社）都市ガス振興センター）

1. 対象事業者：家庭用需要を除く全業種（リース、ESCO 事業、エネルギーサービス事業についても対象）
2. 対象事業：5%以上の省エネルギー性を有し、次の要件に適合する設備を有する

ガスコージェネレーション推進事業

- ①対象設備に使用する燃料は、天然ガスを主原料とするガスを使用すること。
- ②対象設備は、高効率型天然ガスコージェネレーション設備、天然ガスコージェネレーション活用型エネルギー供給設備、燃料電池であって、技術的新規性若しくは総合的な高効率性を有すること。
- ③対象設備には、燃料使用量及び廃熱利用量を測定する専用の計測装置を取り付けること。

※合計発電出力により要件が異なる。詳細は（一社）都市ガス振興センターの Web サイト参照のこと。

3. 補助率：①地方自治体等は 1 / 2 以内 ②民間団体は 1 / 3 以内
4. 補助金上限額：5 億円／年・1 補助事業
5. 交付実績：交付額（件数）：5,726,870,908 円（93 件）：27 年度
6. 効果：93 事業の天然ガスコージェネレーション設備導入事業に補助金を交付したことで、平成 27 年度稼働分については、発電出力として 119,917kW（原油換算一次エネルギー削減量として 38,883kL/年）の省エネルギー推進に寄与した。

自家発電設備導入促進事業（事務局：みずほ情報総研(株)）

1. 対象事業者：日本の法律に基づいて設立された民間団体等

※電気事業法に定める卸電気事業、卸供給事業を除く

2. 対象事業：①電気事業者へ電気を供給する事業

②自家消費の目的で自家発電設備の設置等を行う事業

※新規設備の稼働、既存設備の改修による増出力、休止・廃止設備の再稼働による増出力の区分により要件が異なる。詳細はみずほ情報総研(株)の Web サイト参照のこと。

3. 補助率：1 / 2 以内又は 1 / 4 以内
4. 補助金上限額：5 億円／年・1 補助事業
5. 交付実績：一次公募分交付額（件数）：383,057,349 円（42 件）
二次公募分交付額（件数）：832,498,879 円（45 件）

6. 効果：26 年度中の補助金交付により、新たに 417,270KW の自家発電能力を確保した。
7. フォローアップ調査の実施：27 年度には、みずほ情報総研(株)に対し、この補助金により導入した自家発電装置の運用状況を把握し今後の分散型電源導入促進事業の効率的制度設計のための調査を委託した。

【廃炉・汚染水対策事業費補助金】

当法人では、平成 26 年 2 月より引き続き、我が国の科学技術の水準の向上及び廃炉・汚染水対策を円滑に進めることを目的とした「廃炉・汚染水対策事業費補助金」の基金設置法人として、廃炉・汚染水対策に資する技術の開発を支援する事業に対して補助金を交付する事業を実施している。

本事業の実施に際しては、実際の補助金申請の受付、審査等の事務を執り行う「事務局」として、(株)三菱総合研究所が選定され、当法人では造成した基金の運用、管理と事務局への指導監督を実施している。

本事業は、第 10 次公募まで行われ、34 事業者（共同提案事業者、組合員等含めたうえで、重複を省いた事業者数）が採択された。平成 27 年度末までに、各事業毎に最終報告会が実施された。実施状況は以下のとおりである。

1. 対象事業者：第 1 次公募 法人格を有しているか、地方公共団体
第 2～10 次公募 民間団体等
2. 対象事業：公募する事業により異なる。
3. 補助率：定額、又は 1 / 2 以内
4. 補助金上限額：公募する事業により異なる。
5. 交付実績：年度末時点で確定検査の途上
交付決定額（件数）16,873,229,029 円（46 件）
うち、平成 28 年 3 月末までに 概算払いをした額は、6,454,770,786 円

公 募	事 業 名	交付 決定 件数	交付決定額
第一次	過酷事故解析コードを活用した炉内状況把握	1	872,473,914 円
	燃料デブリ性状把握・処置技術の開発	1	707,759,024 円
	使用済燃料プールから取り出した損傷燃料等の処理方法の検討	1	49,987,190 円
	使用済燃料プールから取り出した燃料集合体他の長期健全性評価	1	448,619,334 円
	事故廃棄物処理・処分技術の開発	1	892,080,683 円
第二次	海水浄化技術検証	5	316,489,266 円
	土壌中放射性物質捕集技術検証	2	236,625,260 円
	汚染水貯蔵タンク除染技術検証	3	439,290,430 円
	無人ボーリング技術検証	1	339,118,580 円

第三次	原子炉内燃料デブリ検知技術の開発	1	306,743,475 円
第四次	燃料デブリ収納・移送・保管技術の開発	1	57,308,847 円
第五次	トリチウム分離技術検証試験	2	1,678,161,593 円
第六次	燃料デブリ・炉内構造物の取出技術の開発	1	586,394,536 円
	原子炉圧力容器内部調査技術の開発	1	109,918,257 円
	圧力容器／格納容器の健全性評価技術の開発	1	678,807,162 円
第七次	原子炉格納容器漏えい箇所の補修・止水技術の開発	1	2,050,214,590 円
	原子炉格納容器漏えい箇所の補修・止水技術の実規模試験	1	3,993,435,261 円
第八次	燃料デブリ取出し代替工法に関する概念検討事業	4	182,592,344 円
	代替工法のための視覚・計測技術の実現可能性検討事業	4	161,030,879 円
	代替工法のための燃料デブリ切削・集塵技術の実現可能性検討事業	3	128,732,560 円
第九次	燃料デブリ臨界管理技術の開発	1	84,155,031 円
	実デブリ性状分析	1	219,747,800 円
	サプレッションチェンバー等に堆積した放射性物質の非破壊検査技術の開発	1	19,962,228 円
	原子炉格納容器内部調査技術の開発	1	1,067,566,934 円
	原子炉建屋内の遠隔除染技術の開発	1	891,848,976 円
第十次	トリチウム分離技術検証試験	5	354,164,875 円
合計		46 件	16,873,229,029 円

2015 年度 ご寄付ご協賛企業・団体一覧

■ 商品の売上げや、サービスによる収益の一部からのご寄附・ご支援

ザ・バック株式会社

ザ・バックは人と自然を大切にしています

ザ・バック 株式会社

EFF が植林活動を開始した 2000 年から非木材紙紙(バガス・ケナフ・葦)などを使用した商品売上げの一部で国内森林保全活動を継続してご支援いただくと共に、植林活動にもご参加いただいています。



* W A S A R A

株式会社 WASARA

海外森林保全活動を、バガス紙器の売上げの一部でご支援頂いています。



株式会社ディレクターズ

国内環境保全活動を、WEB サイト・セキュリティサービスの売上げの一部で、ご支援頂いています。

昨の営めし本舗 **おぎのや**

株式会社荻野屋

国内環境保全活動を、環境に配慮したパッケージを使用した商品の売上の一部でご支援頂いています。

■ 各プロジェクトへのご寄付・ご協賛

株式会社 エディオン

株式会社 エディオン

国内森林保全活動(奈良・広島)に、ご協賛・ご参加頂いています。

■ ポイントプログラムを通じたご寄附・ご支援



アメリカン・エクスプレス・インターナショナル Inc.

アメリカン・エクスプレスカードの利用に応じて貯まるポイント・プログラム「メンバーシップ・リワード[®]」にて、ブラジルの森づくりをご支援頂いています。



木材利用・住宅エコポイント

家電・住宅エコポイントによるご寄附を、海外での森林保全活動に活用させて頂いています。



Gooddo (グッドウ)

社会貢献を身近にするプラットフォーム。WEB サイトでのクリック数をポイント化したご寄附をいただき、国内の森林保全活動に活用させて頂いています。